

# 機那サフラン酒本舗の離れ、日本庭園ストーリー

機那サフラン酒の離れ、衣装蔵の説明

2022年11月現在

## 目次

### 1. 概要

- (1) 庭園、離れを、どう見るか
- (2) 庭園、離れの、各々のシンボルツリー、シンボルストーン
- (3) 祈りと感謝、招福と魔除け
- (4) 隠されたストーリー（決意表明と目標達成）

### 2. 離れ座敷

- (1) (離れの概要（客の接待用の建物）
- (2) 離れ座敷の書画、装飾（\*1）
- (3) 屏風、絵画
- (4) 置物
- (5) チンクグリについて
- (6) タガヤサン(鉄刀木)について
- (7) 黒柿について

### 3. 庭園

赤玉石など石の詳細は、別途説明します。

### 4. 美は細部に宿る（God is in the details.）

- (1) 玄関近くの黒柿の透彫り欄間
- (2) 離れの二階、廊下の手摺りの宝珠

参考 日本間の専門用語集、図 ～ アップロード版では省略

- (1) 日本間の図
- (2) 格天井、組子細工
- (3) by Edward S. Morse（1889）より

(\*1) サフラン酒離れ座敷の書画については、別途、詳細版を作成しています。今後、更に改訂していきます。

サフラン酒離れ、庭園の設計について、創業者は、何も残していませんが、何かか隠されていねことは明らかです。

とにかく、壮大なストーリーが隠されているように思っています。

## 1. 概要

### (1) 庭園、離れ座敷を、どう見るか

創業者が、いろいろな意図、意味を込めて建造した庭園、離れ座敷だと思います。その意図、意味に関する研究は、まだ少ないようですが、考えを巡らすと、或る意図、意味があると言わざるを得ないことに気づかされる人も、おられると思います。祈りと感謝、招福に魔除けなど、そのいくつかを「ガイドからのメッセージ」として、まとめました。

### (2) 庭園、離れの、各々のシンボルは

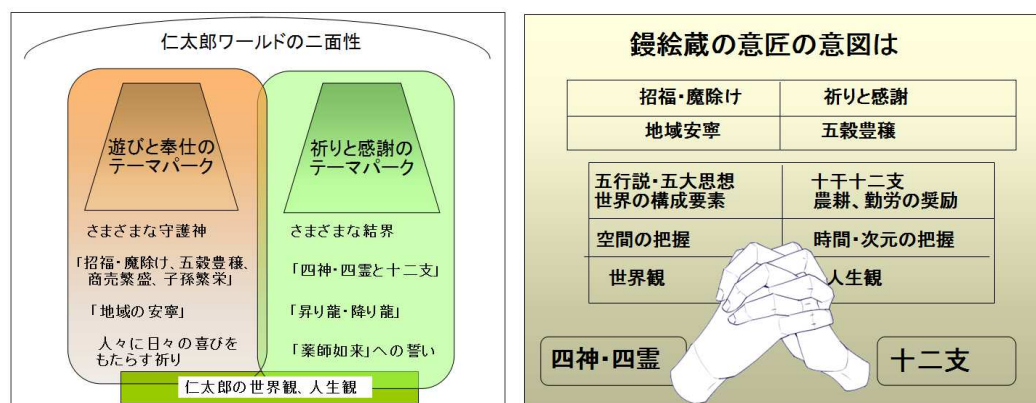
一番の中心は何か、シンボルツリー、シンボルストーンは何か、という観点で、改めて庭園、離れ座敷を見直しますと、異なったものに思い至ることがあります。

たとえば庭園のシンボルツリーを、中央に聳え立つモミの木としますと、信州諏訪の御柱もモミの木であることから、庭園の木も御神木を意図したのではないか、という考えに気づき、さらに結界を探したくなります。シンボルストーンの候補は、たくさんあります。庭園外周を囲む溶岩、多くの赤玉石の中でも、とりわけ大きな池の手前の赤玉石、あるいはその近くの大きな堂々たる山灯籠、などなど。

離れ座敷のシンボルは、何が相応しいでしょう。興味は尽きません。

### (3) 祈りと感謝、招福と魔除け

龍のいる屋敷、庭園、離れ座敷です。祈りと感謝、招福と魔除けの表現に溢れた庭園、離れ座敷は、鑑賞法の真骨頂だと思います。



### (4) 隠された 創業者の「決意表明と目標達成」のストーリー

これには、いくつかの傍証があります。そのひとつは、十年を隔てて建造された衣装蔵の四神の幼さ、若さと、鍔絵蔵の四神の大人の姿の表現です。

## 2. 離れ座敷

ここは、サフラン酒本舗の商売の顧客を接待する迎賓館として、作られたものです。  
随所に散りばめられている、招かれた顧客を歓待する工夫を、探しながらか覧いただきたいと思います。

### (1) 離れの概要（客の接待用の建物）

一階に三部屋、二階に三部屋の広い和室が、それぞれ長い廊下に面しています。

一階の三部屋を囲む廊下は、厚さ七寸のケヤキの一枚板が全部で八枚と、豪華です。

各和室は、それぞれ希少価値のある木による床柱と床の間、日本式の調度家具の設えと、多くの屏風、軸装に囲まれています。

特に二階の折り上げ天井、そして大きな数枚の屋久杉の板で作られた竿縁天井の三室は、もう二度と出てこないであろう設えです。

これ以外にも、朝昼には組子細工の障子、夜には和と洋の家紋入り特注デザインの照明器具から漏れる明かりというように、離れは、

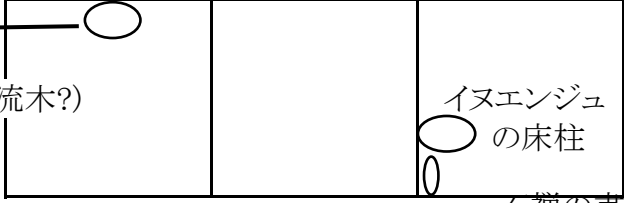
座敷 縁側天井には桐材が豊富に使われた  
縁側空間に敷き詰められたケヤキ板  
きめ細かな欄間  
飾られた古根木  
格天井は風格を与える  
ガラス戸の組子棧に施された猪の目  
書院戸は日本のアラベスク模様の組子障子  
魅了されてどんどん近くに吸い込まれる  
基本は三角形でしっかりとした構造で成立  
懐かしい障子戸で心も和む  
大正ロマン漂う照明器具もとても手の込んだつくり  
障子戸組子のバリエーション  
玄関前の寄り付き座敷に置かれた屏風

玄関を入るとタタキと平行に設えられた長い廊下はケヤキの大板。

・ 玄関はタタキと連続しており、正面に寄り付きの座敷が配置されており、そこに龍の大きな屏。

一階の右、石禅の書のある座敷の床柱はエンジュ

お客様を喜ばせる工夫が目白押しです。

一階の 設え	<p>玄関前の寄り付き座敷に置かれた屏風          縁側天井には桐材に杉という組み合わせが豊富に使われている          (長岡のこの地はもともと桐の植林が活発だった。)          縁側廊下 17mの縁側空間に敷き詰められた幅広・長尺のケヤキ板6枚と、          幅4尺、暑さ7寸のケヤキ          曲がった奥に大きな幅広の2枚、ムクの7分厚の檜の一枚板。          柵目も交互に合わせながら設置されている。          縁側の上の18mの桁は、杉の磨き丸太の一本物である。          きめ細かな欄間のしつらえ 玄関正面の欄間の素材は黒柿。          黒柿は、1万本に1本という確率でしか出現しないという貴重な銘木。          玄関の右廊下突き当りの上には1m近い「古根木」の飾り</p>
一階 日本間	<p>奥(南)の座敷、床の間          床柱のイチイ          チンクグリのケヤキ(流木?)          落としかけの桜</p>  <p>イヌエンジュ の床柱 右禪の書</p>

離れは昭和6年に完成

昭和16年、仁太郎、トゲの怪我がもとで死去

サフラン酒の建物、雑誌の季刊「銀花」1985年冬号に紹介

二階 の設え	<p>二階の廊下ガラス戸はハートマークの「猪の目」をした組子で支えられている。          (ガラス戸の組子棧に伝統模様の猪の目の細工が施されている。)          (ガラス戸の波打つ板ガラスは、大正期の製法に起因する特徴で、溶かした          ガラスを筒から吹いて円筒を作り、それを展開して板ガラスにしたため、          均一な厚みにするのが難しかった。)</p>
北の 座敷	<p>風格を持った和室の天井は折り上げ格天井が空間に威厳を与えている。          床柱はイチイの大木</p>
中座敷	<p>床柱は松 節が見えない銘木          天井は屋久杉材の竿縁天井。 さおふち</p>
南の 座敷	<p>組小書院障子 くみこしょいん の飾りはとてもきめ細かで、麻の葉、胡麻、さくらの三種。構造は三角形が基準であるから細いがとても頑丈。腰板は黒柿。          天井は屋久杉材の竿縁天井。 さおふち</p> <p>照明器具にも家紋などデザインされた特注品で、贅を尽くした光を提供。          まさに陰翳礼讃の空間で、部屋は全般的に暗く落ち着きと威厳を与えている。</p>

## (2) 離れ座敷の書画、装飾

- ・土縁を伴った長廊下は、大きな幅広のムクの7分厚の檜の一枚板、空目も交互に合わせながら設置されている。
- ・縁側の桁は18mの一本の杉杉の磨き丸太の本物である。
- ・縁側天井は桐の木がふんだんに使われている。
- ・一階、二階の廊下ガラス戸はハートマークの猪の目をした組子で支えられている。魔除けとされる。
- ・風格を持った和室の天井は右が繰上格天井が空間に威厳。
- ・二階の中央、左(南)の座敷の竿縁天井は、幅四尺はある屋久杉の板がびっしり。右座敷の床柱はさくらの皮も美しい
- ・書院の組子木建具はとてもきめ細かで日本のアラベスク調でもある。構造は三角形が基準であるから細いがとても頑丈であると説明があった。
- ・照明器具にも全て家紋、商号がデザインされ、特注品もハイセンス。

組子障子 一階はモダン。二階はトラディショナル。

### 床柱

一階の奥(南の間)にイチイ、落とし掛けは桜。違い棚の右の壁は聚楽壁という、今は採れない土。

中の間の床柱は黒檀、北の間(石禅の軸)の床柱は(エゾ)エンジュ。

二階の中の間の床柱は桜。落とし掛けは鉄刀木(タガヤサン)

### 書幅

一階に幕末の水戸藩士、水戸学の学者、徳川斉昭の腹心として知られる藤田東湖の「敬神崇儒」。雲洞庵方丈としても知られた碩学、曹洞宗の重鎮僧侶の新井石禅(\*)が当主にあてて書いた詩。

### 書の人物

藤田東湖 (1806-1855)

江戸時代末期(幕末)の水戸藩士で、水戸学派の学者。

幕府には海岸防禦御用掛として出仕しているが、長岡藩11代藩主の牧野忠雅が老中・海防担当を退いてからのよう。

海岸防禦御用掛は、1853年のペリー来航に際して強化され、水戸藩主徳川斉昭を海防参与に推戴し、水戸藩からは斉昭の腹心である藤田東湖らと同じく幕府の海岸防禦御用掛として迎えた。

酒をこよなく愛し、「書を読むは酒を飲むが如し」などという、酒にまつわる詩を多く残している。

1855年に発生した安政の大地震に遭い死去。

新井 石禅(あらい せきぜん) (1865年 - 1927年)

日本の曹洞宗の僧侶。總持寺独住5世、第11代管長(大陽真鑑禅師)。  
号は穆英。

陸奥国伊達郡梁川村(現福島県伊達市)の石井家の3男に生まれ、12歳の時に菩提寺の興国寺住職新井如禅の弟子となる。曹洞宗専門本校(現、駒澤大学)に学び、わずか3年で卒業。

南魚沼市雲洞庵でも方丈を勤める。

永平寺副監院、總持寺西堂を経て、大正9年(1920年)に曹洞宗第11代管長となる。国内、海外の巡教は数百か所に及び、その徳化は広く知られた。

この書については、別途、解説しています。

### (3) 屏風、絵画

### (4) 置物

アオウミガメの親子の剥製

～アオウミガメは甲羅の尻尾側が滑らか。

それに対してタイマイはギザギザ。

ともに日本近海にいるが、ハワイの海に泳ぐのはアオウミガメ。

以前は、座敷に紫檀の座卓があった。

作者は小川悠山さんという、当時日本一といわれた指物師で、長岡の大工町の職人メンバーだった。

晩年は、高島屋百貨店の専属として、東京に移った。



小川悠山の作の  
紫檀の座卓

かつての一階  
の南端の座敷

## (5) チンクグリについて

チンクグリ(狝潜り)という、耳慣れない、日本間の設えがあります。床の間と床脇・違い棚の間の穴で、少し低いところに作られる穴をいいます。機那サフラン酒本舗の離れの座敷、一階二階の日本間の床の間には皆、チンクグリが作られています。一例をあげますと、一階の南端の座敷には野趣あふれる流木のような枝ぶりのチンクグリ、そして二階の二つの座敷の床の間には高さ一尺程の小さな四角形のチンクグリです。更に、現在は非公開ですが、主屋の座敷にも、畳半畳程の大きなチンクグリの壁跡が残っています。

私の数少ない経験ですが、たいていはチンクグリが一つだけ、屋敷の最上級の座敷にあるだけ、なのですが、サフラン酒本舗の離れでは、このように、たくさんあります。離れが迎賓館だからでしょうか。特に二階の中座敷は、チンクグリの他、床柱に七尺近い、まっすぐの桜、落とし懸けに鉄刀木(タガヤサン)という凝り様です。



上図は、機那サフラン酒 一階の南端の座敷のチンクグリ

右図は、機那サフラン酒  
二階の真ん中の座敷の  
チンクグリ

床柱は七尺近い桜の木  
落とし掛けは、  
鉄刀木(タガヤサン)  
(6)に詳細。



## 近隣の各地観光施設に残る、チンクグリ

<p>新潟県柏崎市高柳貞観園の 根曲がり杉のチンクグリ (江戸時代大庄屋の 公的事務用建物)</p>  <p>隣の上段の座敷には、紫檀のテーブルが展示されています。 明治天皇行幸の際に、ご休憩のために、提供されたとのこと。</p>	<p>長野県軽井沢町南ヶ丘美術館(中央工学校山荘の庭の古民家)のチンクグリ (元山梨県塩山にあった大庄屋屋敷を移築したもの。) 半畳の大きさ</p>  <p>こちらには軽井沢彫の見事な家具とともに、美しい卓表面のタガヤサンの座卓があります。(6)に詳細</p>
--	--

### ・チンクグリの由来について

本来はチンだのチワワだのの通り道として造られたわけではなく、床脇の奥まで外光を採り入れるための建築上の工夫だったようです。そこに、愛玩動物の通り道という、別の意味の発想が生まれたらしい。狎は奈良時代に朝鮮半島から聖武天皇に贈られてきた犬だそうで、江戸時代には大奥で飼育され始めたことから始まって、各地の大名がこぞって飼育していたとのこと。このように狎が生活の中で身近だったために、床脇の明かり採りを、このような名前にしたというのが自然と思っています。

### (6) タガヤサン(鉄刀木)について

サフラン酒の、離れ二階の中座敷の床の間落とし懸けの材木です。マメ科ジャケツイバラ亜科の高木で高さ10～15mになります。紫檀・黒檀と並ぶ三大唐木(輸入銘木)のひとつで、堅い木としても知られています。タイ、インド、ミャンマー、インドネシア等の東南アジア原産で、英語名はボンベイブラックウッド(Bombay black wood)。



「鉄刀木」の名前から想像できるように非常に堅く重い木です。腐食に非常に強いため高級床柱、高級家具などに使われていますが材の取れる量が少ないため非常に高価です。心材は濃褐色ないし、ほとんど黒色で淡色の縞模様を持つ、美しい材木です。

木材の部類では一番硬い部類の木と言われており、いわゆる鉄木 (Iron Wood) の一種とされています。

タガヤサンは紫檀・黒檀と並び三大唐木(\*)のひとつで、非常に希少な銘木として、その美しさを活かした装飾的用途に愛用されている。

辺材は白色で、空気に触れると黄変する。

心材は黒色で、淡色の縞模様があり、板目には雲紋形、矢筈(やはず)形などの美しい紋様が現れる。また唐木のなかではもっとも重くて堅いといわれ、高級家具、細工物、マンドリンほかの楽器、床柱などに用いる。街路樹や庭木として植栽もされるそうです。

(私の体験)

サフラン酒では、離れの床の間の落とし懸けに、素材のままの姿で使われていますが、軽井沢の南ヶ丘

美術館の庭にある古民家で、大きな座卓を見る機会がありました。

(右に写真で示しました。)

とても美しい縞模様で、黒柿か、と思いましたが、学芸員さんの解説で

タガヤサンと知り、驚きとともに眼福のひとつでした。



(\*) 唐木とは中国・タイ・東南アジア等から輸入される高級木材の総称で、熱帯産の希少価値が高い高級銘木の代名詞。唐木の歴史は古く、奈良時代の遣唐使が持ち帰ったことが始まりとされています。

紫檀は熱帯・亜熱帯降雨林にはえる常緑小高木で、重量感と光沢がある紫檀は漆塗り仕上げの高級箸にも用いられています。

色合いは赤褐色～黒色で縞模様があるのが特徴。

黒檀は熱帯に生える常緑高木で、心材は堅く漆黒色で磨くと光沢が出て重厚になり、昔から高級建築や器具、楽器などに用いられています。

心材は硬質で水に沈むほど緻密なため耐久性は極めて高く、色合いは黒色が特徴。インド・スリランカで採れる黒色の木が本黒檀と言われ、その中でも最高級とされのが青黒檀で幻の銘木と称されています。

本紫檀は、唐木材の代表格で珍重されていますが、特に中国では他の

唐木材とは段違いに好まれていて高値で売買されています。  
原産地での唐木材は、過去の伐採がの影響で輸出禁止状態で希少  
価値が高いです。紫檀は、丈夫で長持ち。  
その証拠に正倉院の宝物に紫檀材の作品があります。代表的な宝物は、  
螺鈿紫檀五絃琵琶 木画紫檀碁局 木画紫檀双六局など。

#### (7) 黒柿について

サフラン酒の離れは、黒柿が欄間など随所に使われています。玄関から  
見える欄間については、4. 美は細部に宿る のところで、紹介します。

樹齢数百年を越える柿の古木のうち、ごく稀に黒色の紋様があらわれる  
ことがあり、この紋様があらわれた柿を「黒柿」と呼びます。  
柿材は硬く、密度が高いため加工が難しい材料で、黒い部分と白い部  
分で収縮率が異なるため、乾燥の途中で多くが割れてしまい、取り扱い  
の難しい木材ですが、磨けば磨くほどに滑らかな木肌になり、美しい艶が  
でます。150年以上の古木にのみ現れ、10000本に一本という出現率  
とのことで、数が少なく、高価な黒柿です。

紋様の発現については、遺伝的要因、土壌、微生物やタンニンの影響  
などではないかと推測されていました。しかし、2017年に黒柿について、  
金沢医科大学、金沢大学の先生らにより、「化学的、鉱物学および  
微生物学的特徴と黒柿における生体鉱物の結晶形成」として論文発  
表され、黒柿の黒い部分には有機物や微生物が多く存在し、生育して  
いた土壌にも有機物や微生物の存在が認められました。黒柿の根の  
紋様の発現については、遺伝的要因、土壌、微生物やタンニンの影響  
などではないかと推測されていました。しかし、2017年に黒柿について、  
金沢医科大学、金沢大学の先生らにより、「化学的、鉱物学および  
微生物学的特徴と黒柿における生体鉱物の結晶形成」として論文発  
表され、黒柿の黒い部分には有機物や微生物が多く存在し、生育して  
いた土壌にも有機物や微生物の存在が認められました。黒柿の根の  
白色部分で、球菌などの微生物がCa,P,S,Cl,などを取り込み、  
生体アパタイト(燐灰石)を形成し、成長するに従い、更に黒色化。  
そして年月を経るにしたがって、幹の辺材部に黒色の縞模様(孔雀杓)  
を作りながら珪化木(植物の化石)を形成することが証明されました。

※参考 木材の比重

天然素材の木材で、生育、保管状態に依存するが、おおよそ下記のように。

キリ	0.30
マツ	0.50
樺、桜	0.6
アカガシ	0.90
紫檀などの唐木	0.80-1.06

※参考 木材の硬度

非常に硬い

アカガシ、アカシア、ケヤキ、ツゲ、ビャクダン

コクタン、シタン、タガヤサン

硬い

アオダモ、ウォルナット、クリ、クロガキ、タブノキ、チェリー、ヤマザクラ

やや硬い

エンジュ、カラマツ、ツバキ

並

シラカバ、レバノンスギ

やや軟らかい

エゾマツ、カツラ、クスノキ、クロマツ、スギ、ポプラ

<https://wood-museum.net/hardness.php> を参考にしました

### 3. 庭園

機那サフラン酒本舗の3千坪の屋敷には、灯籠や名石の散在する  
広大な庭園をはじめ5つの蔵と母屋、離れ、店舗、サフラン酒製造所などが  
あり、それぞれが立派な文化財です。

鰻絵の蔵は昨年修復をすることができましたが、それ以外は中越大震災の  
後、激しい損傷を受けました。その後、一部修復がされました  
が、まだ不十分であり、現在も修復が行なわれています。

#### a) 屋敷の石

浅間山 鬼押し出しの溶岩

信越線・宮内まで列車、そして大八車。

佐渡の赤玉石 (2m径) ~魔除けの意味ももつ。

佐渡市(旧両津市)の赤玉にある「杉池」、この神秘的な池を池を  
源流とする小さな川の岸からしか産出されないという。

神戸の本御影石、鳥取の佐治川石とともに、日本三大名石のひとつ  
とされる。

赤玉石は、塊状石英に多量の酸化鉄が含まれて血赤色になったもの。  
鉄分と石英が高熱と高圧で結合した石で、非常に硬く

(硬度は6.5~7.0)磨いたときに透明感のある光沢がでます。

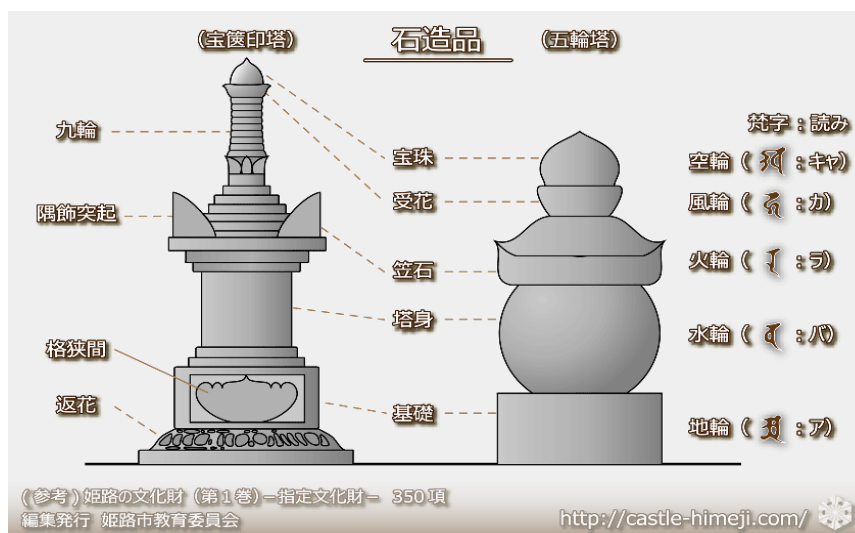
色彩の美しさは日本一と言われて日本三大名石のひとつとされます。

小佐渡地域の岩石のほとんどは、大陸時代の火山活動でできたもの。

糸魚川・姫川の翡翠原石 (1.5m径)もある。~魔除けの意味も有する。

翡翠も、石英がベースの変質したもの。

#### b) 灯籠



## 五輪塔、五大、石灯籠

五輪塔とはお墓の種類のひとつで、お墓として広く建立されています。五大(ごだい five elements)とは、宇宙(あらゆる世界)を構成しているとする地(ち)・水(すい)・火(か)・風(ふう)・空(くう)の五つの要素のこと。

### 日本庭園における石灯籠

日本には飛鳥時代に仏教が伝来したのと同時に灯籠が伝来した。初期はその多くが「献灯」と呼ばれ、社寺に設置されていたが庭園文化の発達と共に園内に鑑賞目的で設置されるようになった。石質は花崗岩が主流で、その中でも御影石は石灯籠の中で最も多い。

石灯籠の部分名称(上から順に)	
宝珠(擬宝珠)	笠の頂上に載る玉ねぎ状のもの。
笠	火袋の屋根になる部分。六角形や四角形が主流であるが雪見型の円形などもある。多角形の場合は宝珠の下部分から角部分に向かって線が伸び、突端にわらび手という装飾が施されることもある。
火袋	灯火が入る部分で灯籠の主役部分である。この部分だけは省略することができない。
中台	火袋を支える部分で最下部の基礎と対照的な形をとる。蓮弁や格狭間という装飾を施すことがある。
竿	もっとも長い柱の部分。雪見型に代表される背の低い灯籠ではよく省略される。円筒状が一般的であるが、四角形、六角形、八角形のものも見られる。節と呼ばれる装飾がよく用いられる。
基礎	最下部の足となる部分である。六角形や円形が主流。雪見型灯籠などでは3本や4本の足で構成される。

### 山灯籠

池の中の灯籠は、山灯籠です。自然石を集めて石灯籠の形にした、手作りの灯籠で、石灯籠らしい形はしていますが、六部分(宝珠・笠・火袋・中台・竿・基礎)は初めから考えて作られたものでなく、燈籠の形をなすもの、少しくノミを入れて加工はするが、普通は、そのような形の石をさがし出してきて組み合わせたものです。

このほかにも、あちこちに山灯籠があります。仁太郎さんの趣味だと思います。

菩提寺の定正院の庭園にも、きっと仁太郎さんの寄進と思われる山灯籠が、多数あります。

## 溶岩の築山

現在は二つだが、以前は十ほどあったという。最も高いのが、二つの8mのもので、戦後まもなく崩れ、そのひとつは、南に隣接する金毘羅様の社を破壊したため、危険防止のため、整理したとのこと。

## 溶岩性の噴水と水源

噴水の溶岩の北側上部に龍の頭部、その上に不動明王、もしかしたら龍頭観音を表わしているかも。不動明王は、動物に例えると龍だという。南側にブロンズ製と思われる、精緻な龍。池の中にある溶岩から噴水が出ている写真がある。その水源は、離れの西側に立っている、建物より高い位置に作ったタンクで、その水圧で噴水にしたと言われています。

池の奥の築山の中にも、不動明王。

## (c) 日本庭園の補足

歩いて回る庭園は、離れの二階縁側からの眺めも、絶景です。信越線しかなかった時代に、越後宮内駅から人力で運んだと思われる、大量の浅間山溶岩、天下の名石、そして多くの灯籠、池が散りばめられた庭園は、最盛期の素晴らしさを偲ばせます。

2004年の新潟地震では、震央に近い摂田屋地区も大きな被害を受けましたが、醸造の各店舗も事業を継続でき、この庭園、離れも、現在は、かなり復旧しています。大勢のボランティアの協力で、年に数回の草取りが行なわれ、土日の庭園公開は人気です。

#### 4. 美は細部に宿る (God is in the details.)

##### (1) 玄関近くの黒柿の透彫り欄間

サフラン酒には、さまざまな「美」の趣向があり、そのなかには、凝視しないと気づかないものもあります。離れの玄関を入り廊下に立つと、目の前にある「黒柿の透かし彫りの欄間」、して二階、廊下の見逃しがちな「手摺りの飾り」。気づかずに過ぎ去るには、あまりにもったいない仕掛けが、随所だと思えます。この欄間の後ろにある床の間にかかる新井石禅師の書は、奇縁のストーリーですが、これも離れのガイドで重要な解説ポイントです。

さて、  
黒柿の透彫り欄間  
についてです。



黒柿の透かし彫りの欄間は、豪商の迎賓館玄関口を飾るにふさわしい、稀代の名品です。着目すべきは三点です。

- 1) これだけ大きな幅をもつ柿の木は貴重、しかも黒柿です。
- 2) 驚くべきデザイン力。黒色のあるべきところに柿の渋を生かした、竹の節、葉。雀の体、羽。  
私らは完成した木彫を見ていますが、彫る前には、この表面は見えていないはず。恐らく10mmほど手前の平らな面を見て、この奥に柿の渋が存在することを類推しつつ、少しずつ掘り進み、指物師と、次に彫る深さを相談していたと思うのです。
- 3) その指示に従い、堅い柿の一木の透かし彫りにしていく指物師の腕も、たしかなものです。

竹の節と葉、雀の体と羽と、ほしいところに柿渋の黒。美は細部に宿る、という言葉がありますが、まさに、見れば見るほど、そのデザインの迫力に驚きます。  
どんなにガイド時間が短いゲストの場合にも、じっと見つめていただく時間を、と留意しています。

でも玄関の上り口にある欄間ですから、画題にも深い意味があるはずです。隠されている意味は何でしょう。  
ひとつ、考えてみたのですが、・・・。

「竹雀図」は京都の本願寺書院の国宝・ふすま絵にあるように、竹と雀の画には、『燕雀いづくんぞ鴻鵠の志を知らんや』、という意味があるようです。（「史記」陳涉世家）

転じて、

「視野を広くして大きく羽ばたけ」

「生き方を笑われても気にするな」

「最後、信じられるのは自分しかいない」

「自分を信じてやっいていこう」

自分は今、雀ではあるが、きっと将来、大物になって見せる、

仁太郎さんの、心意気ではないかと、密かに思っています。

きっと持っていたら創業者の一面は、ここにしか見出せません。

(6) 離れの二階、廊下の手摺りの  
美しい曲面で削られており、  
仁太郎の美意識を感じます。  
さりげなく彫られた宝珠ですが、  
私は、薬師如来の登り龍降り龍の  
求める悟りのシンボルとしての宝珠  
考えたいのですが・・・。

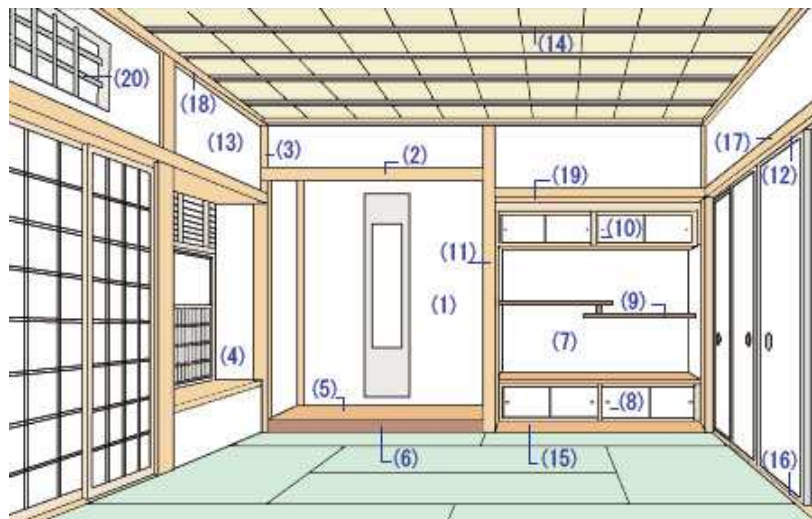
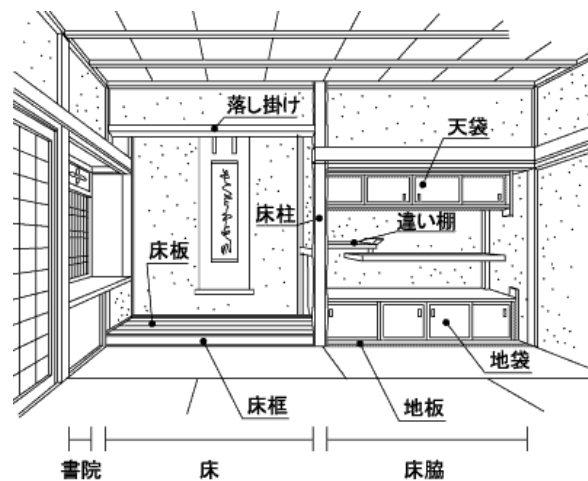
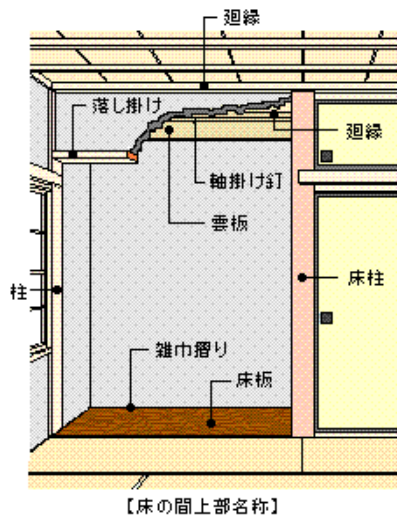




## 日本間の用語

① 竿縁天井 ② 竿縁 ③ 欄間 ④ 小壁（下り壁） ⑤ 障子 ⑥ 付書院 ⑦ 床 ⑧ 床框  
 ⑨ 狝潜り（ちんくぐり） ⑩ 天袋 ⑪ 地袋 ⑫ 地板 ⑬ 廻り縁 ⑭ 落掛け ⑮ 床柱 ⑯ 底板 ⑰ 遠い棚





(1)【床の間】

茶室や座敷の正面奥の掛け軸や花、香炉を飾る空間のこと。

(2)【落とし掛け】

床の間の上部の小壁を受ける床と平行に入れる横木のこと。

(3)【下げ束(さげづか)】

床脇にある天袋の襖の戸当たり部分や、床の間の小壁に設ける束(短い垂直材)のこと。

(4)【書院】

床の間と縁側との間に設ける窓形式の座敷飾りのこと。昔は造り付けの机の意味もあり、ここで読書をしました。

(5)【床板(とこいた)】

床の間の床に張る地板や畳のこと。座敷の地板(畳)の仕上げ面と同じ高さにする形式と一段高くする形式があります。

(6)【床框(とこがまち)】

床の間を座敷より一段高くする場合に用いる仕上げ材のこと。

(7)【床脇】

床の間の脇に設けられ、(8)【地袋】、(9)【違い棚】、(10)【天袋】で構成される。

(8)【地袋】

床脇の床面に接して設ける背の低い袋戸棚のこと。  
袋戸棚とは、引き違いの襖(ふすま)をつけた戸棚のこと。

(9)【違い棚】

床脇に2枚の棚板を段違いに組み合わせて設ける飾り棚のこと。

(10)【天袋】

床脇の違い棚の上部や押し入れの上部に付けられた袋戸棚のこと。

(11)【床柱】

床の間と床脇棚の境にある床の間を構成する中心的な化粧柱のこと。

(12)【鴨居(かもい)】

障子や襖などの引き戸を立てこむための溝が掘られている横木のこと。  
敷居と対をなすものです。

(13)【小壁】

幅の狭い壁のこと。鴨居(かもい)の上にある狭い壁や吹き抜きの左右の細壁などをいいます。

(14)【竿縁】

天井を下から支えるために用いる細い部材のこと。

(15)【地板】

床面と同じ高さに敷かれている板のこと。その他に床脇の違い棚や付け書院の床になる幅広の化粧板も指します。

(16)【敷居】

部屋をわける境の部分に敷いた横木のこと。障子や襖などの引き戸を

受ける材で鴨居と対をなすものです。

(17)【長押】

鴨居の上部に取り付けられる化粧材「内法長押」のこと。

(18)【回り縁】

天井と壁が接する部分に納まりのために取り付けられた見切り部材のこと。

(19)【無目(むめ)】

敷居や鴨居で溝のないものや欄間の敷居のこと。

(20)【欄間】

天井と鴨居の間に、採光や通風を目的に設けた開口部のこと。  
部屋と部屋の境に入れるものを「間越し欄間、書院欄間」、部屋と縁側の境に入れるものを「明り欄間」といい、透かし彫りを施すなどのデザイン性の高いものも多くあります。

床柱

槐(えんじゅ)

マメ科

ロウ仕上げ

辺材が白く、心材が茶褐色で磨くと美しい光沢が出る。

直径の大きな材は少なく、心材の部分のみの角柱は少ない。

木目も美しい。

欒(ケヤキ)〔ニレ科〕

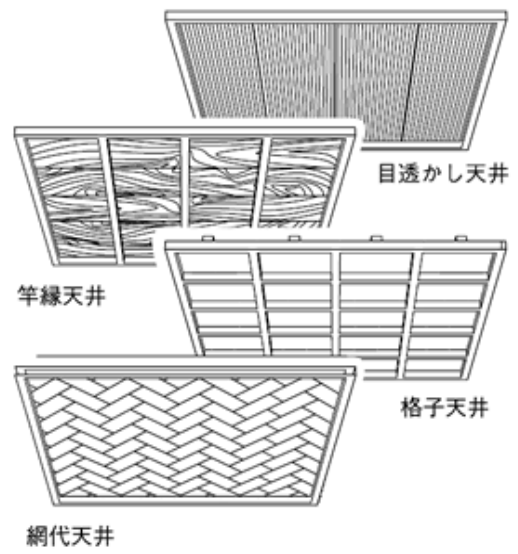
明瞭で美しい杳目を現す日本を代表する銘木。東北～九州と日本に広く分布するが、その中で杳目・材質が優良なものが銘木となる。

タモ〔モクセイ科〕

明瞭で美しい杳目を現す銘木。通直な材が多く、テーブルやカウンター、上り框などに多く使われている。

# 格天井、組子細工

## (1) 格天井



折り上げ天井



折り上げ格天井

## 格天井

ごう天井と呼びます。離れ二階の最初の日本間が、この形式。格縁(ごうぶち)を縦横に組んで正方形の区画模様を構成します。重厚かつ格調高い室内に仕上がり、書院建築の大広間などに用いられます。この組木を格縁(ごうぶち)、その間を格間(ごうま)という。格間が小規模の格天井になったものを小組格天井、天井の中央部を一段支輪を湾曲して立上げて高くしたものを折上げ格天井という。さらに中央部を折上げにしたものを二重折上げ格天井という。江戸期の著名な建築に、京都二条城の大広間の将軍の座る日本間、名古屋城本丸御殿のいくつかの日本間、なかでも家光が上洛の時、義直が建造したという上洛殿は、豪華そのもの。

## 竿縁天井

細木の竿縁で天井板を支えた天井で、日本古来の在来構法で今でも一般的によく使われている。本来は、杉板の無垢材ですが、最近では化粧合板や、プリント合板、化粧石膏ボードなどが使われることが多いようです。離れ二階の奥二つの日本間は、屋久スギの木目の美しい幅広板を使った竿縁天井。

## 網代天井(あじろてんじょう)

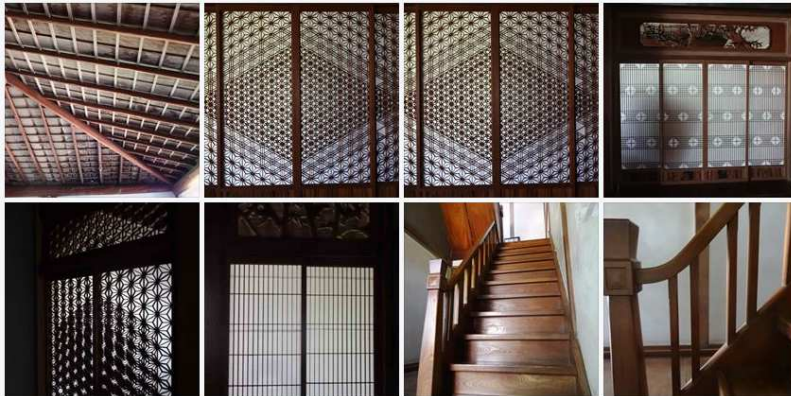
天井の仕上げによる名称のひとつで、竹皮や割竹、杉(すぎ)、檜(ひのき)、榎(さわら)などの片板(へぎいた・粉板)を互い違いに編んだ天井のことです。離れ二階の最初の日本間の、小さな床の間の天井、一階トイレ天井も。

## 組子(組子細工)とは

離れの随所にある中で、最大のものが二階奥の組子細工の障子です。組子は組子細工とも呼ばれ、小さく切り出した木片を、釘を使わずに組み合わせて美しい幾何学模様を描く工芸品です。木片の切り出しから行い、各パーツには組み合わせる際にパーツ同士を噛み合わせるための溝を彫ります。切り出したパーツをカンナやノコギリ、ノミなどを使って調整し、一切釘などの金属を使わずに丁寧にひとつひとつ手作業で組み合わせていきます。木を組み込んでいく工程は紙1枚の厚さでもずれてしまうと組み付けが出来なくなるほどの細かい作業で、熟練した職人の技術と木を知り尽くす知識が無いと作る事ができません。百年近い乾燥で収縮している筈で、それを見込んで寸法を出し、美しさを保つ指物師の腕も、注目です。

西洋のレースのような美しく繊細な組子(くみこ)は、古くから

日本の建築に装飾として施されてきました。  
組子を作るには非常に高度な熟練した技術が必要で、1人前の職人になるには10年以上かかると言われています。和室離れが進んだ現代の日本では触れる機会が少なくなっていました。日本家屋の中で使われる障子(しょうじ)や襖(ふすま)、戸などの建具の装飾として使われており、木を組み合わせてできる模様の数は200種類を越えると言われます。



組子を作るには非常に高度な熟練した技術が必要で、1人前の職人になるには10年以上かかると言われています。和室離れが進んだ現代の日本では触れる機会が少なくなっていました。

組子(組子細工)とは

組子は組子細工とも呼ばれ、小さく切り出した木片を、釘を使わずに組み合わせて美しい幾何学模様を描く工芸品です。木片の切り出しから行い、各パーツには組み合わせる際にパーツ同士を噛み合わせるための溝を彫ります。切り出したパーツをカンナやノコギリ、ノミなどを使って調整し、一切釘などの金属を使わずに丁寧にひとつひとつ手作業で組み合わせていきます。木を組み込んでいく工程は紙1枚の厚さでもずれてしまうと組み付けが出来なくなるほどの細かい作業で、熟練した職人の技術と木を知り尽くす知識が無いと作ることができません。

日本家屋の中で使われる障子(しょうじ)や襖(ふすま)、戸などの建具の装飾として使われており、木を組み合わせてできる模様の数は200種類を越えると言われます。

Kumiko, joiner, which must be necessary for Japanese housing.

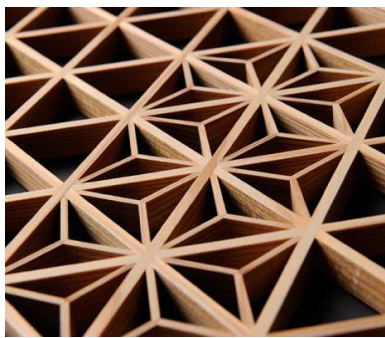
Modern design with light and dark

Japanese joiner is a unique interior for Japanese housing with functions to take just moderate amount of light and breeze in the house and sophisticated designs to color the atmosphere of the house.

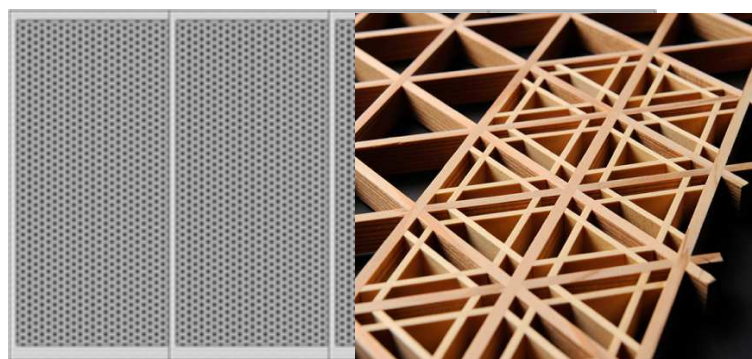


Japanese joiner is a unique interior for Japanese housing with functions to take just moderate amount of light, to breeze in the house and to give sophisticated designs for affecting the atmosphere of the house.

Asanoha(麻の葉)



Goma(胡麻)



Kumiko, joiner, which must be necessary for Japanese housing.

Modern design with light and dark

Japanese joiner is a unique interior for Japanese housing with functions to take just moderate amount of light and breeze in the house and sophisticated designs to color the atmosphere of the house.

Sashikan Tategu offers 13 kinds of basic and universal designs of traditional kumiko for housing joiner. Various designs and usage are available according to the plan or image of architects and designers.

Traditional Japanese muntins, or kumiko, are crafted by joining pieces of wood together without the use of nails.

It is one of Japan's traditional crafting techniques, developed alongside Shoin-zukuri, a traditional Japanese architectural style, in the Muromachi era (1336-1557) the technique was used in making the wooden fittings of windows, shoji (paper sliding doors), ranma (transom), and so on.

Cutting up a cleft into 1.5mm wooden pieces, cuts and tenons are added to create wooden joint designs.

Muntins created by the above method is what we call Kumiko. For some designs, over 100 000 pieces of wood can be used, ever single one of them having been carved by hand by master craftsmen.



There are over 100 design patterns, and beautiful and original muntins are made by combining these patterns.

Modern design using light and shadow contrasts

By fitting small pieces of wood together, the Kumiko muntin technique harbours designs that are delicate and yet full in variety. The design is beautiful and multifaceted resembling a kaleidoscope. (万華鏡)

Muntin used for shoji or ranma interact with the light, casting fantastic shadows on the floor.

Japanese Homes and their Surroundings

by Edward S. Morse (1889)

Biyo-bu A folding screen

Cha-no-yu A tea-party.

Chigai-dana A shelf, one half of which is on a different plane  
from the other.

Do-ma Earth-space. A small unfloored court at the entrance  
the house.

Fukuro-dana. Cupboard; literally, “pouch-shelf.”

Fumi-ishi Stepping-stone.

Fusuma A sliding screen between rooms.

Genkan The porch at the entrance of a house.

Hashira A post.

Hikite A recessed catch in a screen for sliding it back and  
forth.

Hi-no-ki A species of pine.

Hisashi A small roof projecting over a door or window.

Iri-kawa. The space between the verandah and room.

Ishi-dMrM. A stone lantern.

Ji-bukuro. Cupboard.

Kake-mono Hanging picture

Kami-no-ma Higher room.

Kamoi Lintel.

Kara-kami Sliding screen between rooms

Kazari-kugi Ornamental headed nails.

Kaze-obi The bands which hang down in front of the kakemono;  
literally, “wind-band.”

Kuguri-do A small, low door in a gate.

Kura A fire-proof store-house.

Nikai-bari Horizontal beam to support second-story floor.

Noren Curtain. Hanging screen.

Nuri-yen A verandah unprotected by amado.

Ochi-yen A low platform.

Oshi-ire Closet; literally, “push, put in.”

Ramma Open ornamental work over the screens which form  
the partitions in the house.

Ro Hearth, or fire-place, in the floor.

Ro-ka Corridor. Covered way.

Sake Fermented liquor brewed from rice.

Samisen A guitar with three strings.

Samisen-tsugi A peculiar splice for joining timber.

Sashi-mono-ya Cabinet-maker.

Setsu-in Privy; literally, “snow-hide.”

Shaku A wooden tablet formerly carried by nobles when in  
presence of the Emperor.

Shita-nuri The first layer of plaster.

ShM-ji The outside door-sash covered with thin paper.

Sode-gaki A small ornamental fence adjoining a house.

Sudare A shade made of split bamboo or reeds.

Sugi Cedar.

Sunoko A platform made of bamboo.

Tamari-no-ma Anteroom.

Tansu Bureau.

Taruki A rafter of the roof.

Tatami A floor-mat.

Ten-jM Ceiling.

Te-shoku Hand-lamp.

To-bukuro A closet in which outside doors are stowed away.

Tokkuri A bottle.

Toko The floor of the tokonoma.

Toko-bashira The post dividing the two bays or recesses in the guestroom.

Tokonoma A bay, or recess, where a picture is hung.

Tori-i A portal, or structure of stone or wood, erected in front of a Shin-tM temple.

Tsubo An area of six feet square.

Tsugi-no-ma Second room.

Tsui-tate A screen of one leaf set in a frame.

Tsume-sho. A servant's waiting-room.

Usukasumidana

A name for shelf; literally, "thin mist-shelf,"

Uwa-nuri The last layer of plaster.

Yen-gawa Verandah.

Yuka-shita The beams supporting the first floor.